四国

SDGs 農業の明日探る

2015年９月に国連サミットの加盟国の全会一致で採択された持続可能でよりよい世界をめざす国際目標であるＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）。「誰一人取り残さない」を基本理念に、17の目標で構成され、先進国・途上国、また個人・法人問わず、取り組みが進められている。四国でＳＤＧｓに取り組む農業者の事例と想いを紹介する。

障がい者支え地域とともに

安芸市　こうち絆ファーム

利用者に収穫作業を指導する北村代表（右）

【高知】安芸市の（一社）こうち絆ファーム（北村浩彦代表理事、55）は、引きこもりや心身に障がいがある人たちの就労を農業分野で支援するため、ナス農家の北村代表と同市内のナス農家2人で2019年12月に設立。20年4月に多機能型事業所「TEAMあき」を開所し、行政や関係機関と連携して地域共生社会作りを実践している。

同事業所は「就労継続支援B型」と「就労移行支援」で福祉サービスの提供を始め、6人のスタッフと8人の利用者で、同市のナス農家5戸から袋詰め作業を請け負った。ナスの農閑期の対策として、ハウスでオクラ12㌃の栽培を始め、利用者の増加に伴いナス39㌃の栽培も始めた。

「利用者が自分の力で生きていくよう、支援するのがわれわれの役目」と話す北村代表。利用者とのコミュニケーションを心がけ、時には厳しく接している。

8月には男性の利用者がナスで新規就農することが決まった。北村代表のハウスで3年間実践を積み、その後、県の事業を活用してハウスを建てる計画だ。また、他に陸運業者やドラッグストア、県の臨時職員に一般就労で就職が決まった利用者や、同法人の職員として採用が決まった利用者もいる。

「農福連携は農業の人手不足の解消だけが目的ではない。生きづらさを抱えている人たちが自分の居場所に気づくことで戦力になり、結果的に人手不足解消につながる」と話す北村代表。「引きこもりや障がい者の就労支援や職業訓練の場を増やし、将来的な地域の担い手につなげたい」と語る。

3 すべての人に健康と福祉を

皮やヘタも余さず活用

伊方町　柑橘経営の「ニュウズ」

店舗の売り場前で土居社長

【愛媛】「自分たちが愛情を込めて栽培した柑橘を余さず味わってほしいという想いが昔からあった」と話すのは、県内でも有数の柑橘産地の伊方町で、約15㌶の園地で柑橘経営を営む㈱ニュウズの土居裕子社長（37）だ。

同社では、自社園地で栽培された柑橘類を自らが加工することで、通常は廃棄される皮やヘタなどを余さず活用したグラノーラや焼き菓子などを製造・販売している。「昨年冬に菓子製造の許可を取得し、本格的な菓子商品の開発・販売が可能になった」と土居社長は話す。1日10本限定販売の焼き菓子「ウィークエンド」には、パウダー化した柑橘の皮などがちりばめられており、人気の商品だ。製造を委託しているゼリーやジュースなども、2025年を目標に自社内での完全6次産業化を進め、廃棄部分を減らしたいという。

温州ミカンのウィークエンド

「自分たちがやりたいことをやった結果がSDGsという世界的な目標につながった。やっていることに間違いはないという後押しになった」と自信をつける土居社長。「持続可能な農業を続けて次世代につなぐこと、地域の担い手として荒廃農地を借り受け柑橘栽培を続けることで、地域から頼られる存在になりたい」と話し、「今後も、『将来に希望が持てる新しい農業』に社員一丸で取り組んでいきたい」と意気込みを語ってくれた。

12 つくる責任 つかう責任

積極的に従業員の待遇改善

さぬき市　さぬきの農

【香川】さぬき市鴨部の㈱さぬきの農（梶原大介代表＝写真）は、米23㌶、麦25㌶を栽培、地域の農業機械銀行にも参加し、作業受託などを展開している。

同社は、梶原代表が2014年に兼業農家だった父親の経営を引き継ぎ独立。その後、近隣農地の集積・集約化を進め規模を拡大し、20年に法人化し年で雇用

8 働きがいも経済成長も

菌床栽培維持へ植林活動

神山町　神山椎茸生産販売協同組合

【徳島】「山が好きなことがきっかけで、地元教育機関などへの食育や植林活動を始めて10年になる。売り上げの一部をあてることで、美しい山から恵んでいただいたモノを自然に還元考えている町の神山椎合代表理事だ。

神原さん

4 質の高い教育をみんなに

15 陸の豊かさも守ろう

四国総局
香川県農業会議　高松市松島町1-17-28　県高松合同庁舎5階　087・812・0810
徳島県支局　愛媛県　088・678・5611　089・943